

A : 自己評価は適当である
 B : 自己評価は適当でない
 C : 外部評価は可能であるが資料不足
 D : 外部評価は不可能である

学校教育目標 豊かな感性をもち 主体的に活動する子どもの育成 校訓 強く 正しく よく考える
 日本国憲法、教育基本法をはじめとする諸法規の示すところに従い、かつ、地域の実態、保護者の願い、児童の発達段階を考慮し、学習指導要領をふまえた教育活動を進める。

【学校像】
 ・保護者や地域と連携を密にし、魅力ある信頼される学校
 ・児童の人格や個性を大切にし、児童を中心にした楽しい学校
 ・「環境も人を作る」の信念で、美しい落ち着いた環境のある学校

【児童像】
 ・深く考え、自ら進んで学習する子ども
 ・思いやりがあり、正しい生き方ができる子ども
 ・強くたくましい子ども
 ・あいさつをする子ども

【教師像】
 ・教育専門職として不断の研修に努める教職員
 ・英知を結集し創造的教育活動を組織的に進める教職員
 ・児童、保護者、地域の願いを共有できる教職員
 ・子どもに対する教育的愛情をもつ教職員

領域	具体的方策	評価指標及び評価基準 努力指標	成果指標	外部評価委員会	
				評価	最終評価での指摘
信頼される学校	総合的な学習、生活科、社会科などにおいて、地域の人々やその道の専門家に学ぶ。	・人材を効果的に活用した。 1. 人材を効果的に活用できなかった。		A	地域の人々やその道の専門家に学ぶでは、今後も継続して人材を活用できるような手立てが必要なのではないか。 常時、学校の情報をホームページや文書で公開するでは、学校の様子について、文書などでわかりやく情報発信していただいた。
	地域の行事に参加し、交流を深める	・地域の行事に積極的に参加した。 1. 地域の行事に参加できなかった。	・地域の方々と話をする機会が増えた。 1. 地域の方々と話をする機会が増えなかった。	A	
	常時、学校の情報をホームページや文書で公開する。	4. 随時、学校の情報をホームページや文書で公開した。 3. 月に一度は、学校の情報をホームページと文書で公開した。 ・月に一度は、学校の情報をホームページで公開した。 1. 学校の情報をホームページや文書で公開した。		A	
	学校協力者会議員による外部評価を教育活動に生かしていく。	・外部評価を教育活動に生かすことができた。 1. 外部評価を教育活動に生かすことができなかった。		A	
確かな学力	計画的に授業を進め、繰り返し補充のできる時間を確保する。	・必要な単元で補充の時間を計画的に取り入れた。 2. 必要な単元で補充の時間を少し取り入れた。 1. 補充の時間がほとんど取れなかった。	・繰り返し学習し、十分効果があった。 2. 繰り返し学習し、少し効果があった。 1. 繰り返し学習したが効果が薄かった。	A	
	朝の15分学習において、国語の基礎学力の定着を図る。(音読・漢字・読書など)	・ほぼ100%実施した。 2. 90%以上実施した。 1. 80%以上実施した。	・国語の通過率55%未満の児童が10%以下 2. 国語の通過率55%未満の児童が11~19% 1. 国語の通過率55%未満の児童が20%以上	A	
	昼の帯時間を取り入れ、計算力の定着を図る。	・ほぼ100%実施した。 2. 90%以上実施した。 1. 80%以上実施した。	・算数の通過率55%未満の児童が10%以下 2. 算数の通過率55%未満の児童が11~19% 1. 算数の通過率55%未満の児童が20%以上	A	
	表現力を育てる授業を工夫する。	・表現力を育てる授業をいろいろ工夫できた。 2. 表現力を育てる授業を少し工夫できた。 1. 表現力を育てる授業をあまり工夫できなかった。		A	
	個々の児童の変容を見とれる記録を工夫する。	・ワークシートや振り返りカードなどを有効に活用した。 2. ワークシートや振り返りカードなどをよく活用した。 1. ワークシートや振り返りカードなどをときどき活用した。		A	
	社会科、生活科の授業に意欲を持たせる単元の構成と指導法の工夫を研究する。	・指導法工夫の研究を十分に行った。 2. 指導法工夫の研究をある程度行った。 1. 指導法工夫の研究が不十分だった。	・単元の学習が楽しかったと答えた児童が80%以上。 2. 単元の学習が楽しかったと答えた児童が60%~79%。 1. 単元の学習が楽しかったと答えた児童が59%以下。	A	

領域	具体的方策	評価指標及び評価基準	成果指標	外部評価委員会	
		努力指標		評価	評価について
	・学習内容によって少人数指導や習熟度別学習形態を取り入れた授業法を工夫する。	・ 少人数指導が課題別学習形態を積極的に取り入れた。 2. 少人数指導が課題別学習形態を取り入れた。 1. 少人数指導も課題別学習形態も取り入れなかった。		A	
	・ひろしま型カリキュラムについて言語・数理運用科を中心に研究する。	・ 積極的に教材研究をおこない、授業づくりをおこなった。 2. 教材研究をおこない、授業づくりをおこなった。 1. 教材研究や、授業づくりが十分にできなかった。	・ 単元の学習が楽しかったと答えた児童が80%以上。 2. 単元の学習が楽しかったと答えた児童が60%～79%。 1. 単元の学習が楽しかったと答えた児童が59%以下。	A	
豊かな心	・生活習慣調査を継続的に行い、児童の実態を把握し、保護者と共に改善に当たる。	・ 調査結果を全児童の保護者に報告し、保護者との話し合いの場を持った。 1. 調査結果を全児童の保護者に報告し、保護者との話し合いの場を持つことができなかった。		A	環境美化を意識し、行動化できる児童を育てるために率先して教師が行動するでは、その結果として児童の清掃活動に進歩が見られたかどうかという成果指標をつくることも必要である。
	・実践力につながる、児童の実態に合わせた道徳教育の授業の工夫を図る	4. 各種資料を積極的に活用し、工夫した。 ・ 各種資料を活用し、工夫した。 2. 各種資料を活用した。 1. 各種資料を活用できなかった。	・ 授業後自分のことを十分に考えることができた80%以上 3. 授業後自分のことを十分に考えることができた60%以上 2. 授業後自分のことを十分に考えることができた40%以上 1. 授業後自分のことを十分に考えることができた39%以下	A	
	・係活動や委員会活動などを通して、責任感と成就感のある自主活動の充実を図る。	3. 自主活動が行えるようにいろいろ工夫した。 ・ 自主活動が行えるように工夫した。 1. 自主活動が行えるようにほとんど工夫できなかった。		A	
	・環境美化を意識し、行動化できる児童を育てるために率先して教師が行動する。	3. 掃除時間の90%以上一緒に清掃活動をした。 3. 掃除時間の70%～89%一緒に清掃活動をした。 2. 掃除時間の50%～69%一緒に清掃活動をした。 1. 掃除時間の49%以下一緒に清掃活動をした。		A	
	・豊かな心と人間関係を育てるために教職員が率先してあいさつをする。	・ 教職員の方から積極的に声をかけることができた。 1. 教職員の方から積極的に声をかけることができなかった。	3. 子ども達から積極的にあいさつができるようになった。 ・ 子ども達からあいさつができるようになった。 1. 教師があいさつしても返事ができなかった。	A	
	・幼稚園・保育園・小学校で交流し、理解を深め、思いやりの心を育てる。	3. 児童・園児が積極的に交流できた。 ・ 児童・園児が交流することができた。 1. 児童・園児が交流することができなかった。		A	
健やかな体	・体育の準備運動を工夫し、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きができるようにする。	・ 体育の授業に体力向上につながる運動を継続して取り入れることができた。 1. 体育の授業において体力向上につながる運動を継続して取り入れることができなかった。	・ 体育の授業の7割以上で実施できた。 1. 体育の授業の7割未満しか実施できなかった。	A	
	・健康管理、安全管理を意識させる学級指導を工夫する。	・ 自己の健康管理をするための記録カードを計画的に導入し、健康への意識づけができた。 1. 自己の健康管理をするための記録カードを計画的に導入することができなかった。	・ 記録カードに進んで継続的に記録できた。 1. 記録カードに進んで継続的に記録できなかった。	A	
	・給食指導を通して、食の重要性を意識させる学級指導を工夫する。	・ 食の大切さを意識させるために、給食・保健だよりなどの資料を活用した。 1. 食の大切さを意識させるために、給食・保健だよりの資料を活用できなかった。	・ 食の大切さを知り、児童の朝食摂取率や給食の残菜率に効果が現れた。 1. 食の大切さを知り、自分の食生活を振り返ることができた	A	